

故 神田祐一 助教授 年譜

昭和 11 年 (1936 年)

5 月 5 日 神田定之助、ノブの長男として、北海道小樽市緑町に生れた。

昭和 30 年 (1955 年)

3 月—4 月 小樽潮陵高等学校を卒業、小樽商科大学商学部に入學した。

昭和 32 年 (1957 年)

竹内清講師の統計学ゼミナールに所属、数理統計学の演習の後個人研究主題として Cowles Commission 流の連立方程式接近と Wold 流の単一方程式接近について研究した。

昭和 34 年 (1959 年)

3 月 小樽商科大学商学部を卒業、商学士となる。卒業論文は「アイデンティフィケーションの問題」である。

4 月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程（理論経済学・統計学専攻）に入學。森田優三教授のゼミナールに所属、学部時代の研究を深める。

昭和 36 年 (1961 年)

3 月 同課程を卒業、経済学修士となる。修士論文は「逐次モデルに関する一考察」、後、改稿の上『一橋研究』第6号に発表。

4 月 同博士課程に入學。引き続き森田優三教授のゼミナールに所属。学部の森田ゼミにも出席する他、宮川公男・佐藤隆三氏等の需要分析の研究活動に参加（日本機械工業連合会、自動車工業会の関係の業績参照）、また溝口敏行・小野旭・南亮進・松田芳郎氏等の計量経済学的共同研究による実証分析を目的とする Idea 会の創立に努力した。日本統計学会の会員となり、第29回大会で、溝口敏行氏との共同研究「職業別貯蓄行動の統計的分析」を報告。一橋大学大学院の機関誌『一橋研究』の編集委員となり、同誌第8号の発行に努める。

昭和 39 年 (1964 年)

3 月 同博士課程を単位取得につき退學。博士課程単位修得論文は「計量経済学における最近の Liu の所論をめぐっての展望」、後、改稿の上、

「過少認定と逐次モデル」一橋論叢 第 50 巻第 6 号 所収 と『計量経済学におけるモデル構成上の諸問題——H. O. Wold の所論に関するノート』（一橋大学計量経済学研究 No. 2）として発表。

7 月 1 日 小樽商科大学商学部助手となる。同大学 学内研究組織 経済研究所の資料部付である。同研究所の再発足のため伊藤森右衛門教授を主任として資料部が新設され、統計資料の蒐集整理が前年来なされており、その活動強化のためである。『主要統計資料目録』（上）（「小樽商科大学経済研究所特殊文献目録」(2)）1965 の目録編集、特に消費・物価の項は氏の努力にまつ所多かった。

昭和 40 年 (1965 年)

8 月 16 日 小樽商科大学商学部講師とし応用数学Ⅲ（統計）を担当することになった。

昭和 41 年 (1966 年)

10 月 1 日 小樽商科大学助教授となった。この間学部にて応用数学（統計ⅠおよびⅡ）を講義するかたわら、非常勤講師として同短期大学部に出講。講義用 mimeograph, 「計量経済学（Ⅰ）——連立方程式接近法の理論的概要——」, 「同（Ⅱ）——最小自乗推定——」, 「同（Ⅲ）——アイデンティフィケーションの問題——」をまとめたのはこの頃と推定される。

昭和 44 年 (1969 年)

4 月 札幌大学に統計学および経営統計学の非常勤講師として出向のかたわら、同大学地域開発研究所での北海道価格の調査の指導にあたる。

昭和 45 年 (1970 年)

7 月 22 日 小樽港南防波堤上で釣りの際、誤って海中に転落、逝去された。故西川欽也教授のアメリカで事故死を悼んで大学での告别式の準備に奔走された直後の出来事である。

神田文子氏の意志により、蔵書 582 点を小樽商科大学附属図書館に寄贈、神田統計文庫となる。

また遺稿集を編纂（森田優三・竹内清・序・溝口敏行解説）し近刊予定である。

故 神田祐一 助教授 著作目録

著書・論文

「逐次モデルについて」

昭和35年 『一橋研究』第6号

『事業所における四輪自動車の保有状況（第3章2～3節）』（昭和34年度機械工業基礎調査報告書34-N 130）

昭和35年 日本機械工業連合会・自動車工業会

「職業支出における職業効果の分析」

昭和36年 『一橋研究』第7号

『職業別貯蓄行動の解明——昭和34年全国消費実態調査にもとづく家計貯蓄関数の計測』（溝口敏行共同）

昭和36年 （一橋大学計量経済学研究報告 No. 1）

『計量経済学におけるモデル構成上の諸問題——H. O. Wold の所論に関するノート』

昭和36年 一橋大学計量経済学研究 No. 2

「職業別貯蓄行動の統計的分析（溝口敏行共同）」

昭和37年 『季刊理論経済学』Vol. XII, No. 2（1962年6月）

『事業所における自動車の保有状況』（第3部・若干の分析）（市場調査研究会・理論委員会資料 35-03）

昭和37年 日本機械工業連合会基礎調査部

「過少認定と逐次モデル」

昭和38年 一橋論叢第50巻第6号（1963年6月）

「年令別貯蓄関数の計測——中間報告その1——」

昭和39年 『商学討究』第15巻第3号（1964年11月）

「分散分析・共分散分析」

昭和40年 伊大知・桐田編『企業の需要分析』（丸善）所収

「個人営業世帯の貯蓄行動にかんする若干の計測結果」

昭和40年 商学討究第16巻第2号（1965年12月）

「消費支出と職業階層——エンゲル関数の共分散分析」

昭和45年 商学討究第21巻第1号（1970年7月）

「北海道価格体系論序説」

昭和45年 札幌大学『地域開発研究所報』No. 1

書 評

書評; A. E. Maxwell; *Analysing Qualitative Data*, London, 1961.

昭和37年 『一橋論叢』第48巻第1号 (1962年7月)

書評; F. G. ピアット「優先度パターンと家庭用耐久財の需要」(F. G. Pyatt; *Priority Patterns and the Demand for Household Durable Goods*, Cambridge, 1964.

昭和41年 『経済研究』第17巻第2号 (1966年4月)

(1972年1月 松田芳郎・若林信夫編)